

(検体検査)					
健診項目		基準範囲	説明	疑われる病気	再検査・精密検査は
尿検査	PH	6~7.5	尿の酸性/アルカリ性のバランスを調べます。 腎臓は余分な酸を尿から排出しているため、通常は弱酸性ですが腎機能の低下などで酸を排出できなくなるとアルカリ性に傾きます。	高値（アルカリ性）：高尿酸血症、低栄養 低値（酸性）：膀胱炎、尿道炎、腎不全	内科
	比重	1.006~1.030	尿の水分と固形成分の比率を調べます。腎機能が低下すると身体の水分量を調節できなくなります。	高値：糖尿病、脱水症、ネフローゼ症候群 低値：腎不全、尿崩症	内科
	蛋白	(-)	尿中に含まれているたんぱく質の量を調べます。腎機能が低下すると身体に必要なたんぱく質も腎臓から排出されてしまうため、尿中に多く排出されます。 *運動後、入浴後、発熱時なども腎臓に負担がかかり陽性となることがあります。	急性腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱炎、慢性腎臓病 など	内科
	潜血	(-)	尿中に含まれているヘモグロビンの有無を調べます。膀胱や腎臓、尿管など尿の通り道に異常があると尿の中にわずかにヘモグロビンが混じることがあります。	腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、腎結石 など	泌尿器科
	ウロビリノーゲン	(±)	ビリルビンが体内で分解されて尿中に排出されたものです。	高値：肝障害、溶血性貧血 など 低値：胆汁うっ滞、閉塞性黄疸 など	内科
	尿沈渣	異常なし	尿を遠心分離器にかけて得られた固形成分（沈渣）を顕微鏡で観察します。	膀胱炎、尿道炎、腎盂腎炎	泌尿器科
	尿中アルブミン(mg/g・CR)	10以下	尿蛋白の主成分です。腎臓の機能が低下すると血中から漏れ出て、尿の中に増加します。	糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症、ネフローゼ症候群 など	内科
便潜血	(-)	便に血液が含まれているかどうかを調べることで、消化管からの出血の有無を確認します。特に大腸がんの早期発見に有効です。	大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、痔、胃・十二指腸の潰瘍 など	内科	
喀痰細胞診	異常なし	痰の中の細胞成分を観察し、がん細胞が含まれていないか調べます。肺の入り口にできる肺門型肺がんや胸部X線には写らない様な小さながんでも、痰の中にがん細胞が発見されることがあります。	肺がん など	内科または呼吸器内科	
子宮頸がん検査	異常なし	子宮頸がんのがん細胞だけでなく、感染によって変化し、がんに進行する「異形成」といわれる状態の細胞を発見できます。	子宮頸がん 子宮頸部異形成 など	婦人科	
HPV	(-)	子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染しているかを調べます。陽性の場合、子宮頸がんになる前段階の発見にも役立ちます。	子宮頸がんの発生リスク 尖圭コンジローマの発生リスク		